

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・自動車リサイクル士制度 新規講習会（総括編）… P1
 □第6回業界景況調査の結果について … P2・P3・P4 □ヤフオクでの中古エアバッグ流通防止について … P4
 □2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 12月出荷状況と今期累計/12月新車販売・使用済
 自動車発生台数 … P5 □2022年の鉄スクラップ業界の見通し … P6
 □鉄スクラップ最新情報 … P7 □行事予定・お知らせ/編集後記 … P8

vol. **155**

自動車リサイクル士制度 新規講習会（総括編）

01

2021年度の自動車リサイクル士制度新規講習会は、全ての修了試験と合格発表が終了し、2月中旬以降に合格者の皆様へ「認定証と認定証カード」の発送をもって本講習会は終了となります。

一時、新型コロナウイルスの影響により講習会自体の開催も危ぶまれましたが、全国で計208名の方が受験し、結果192名の方が合格しました。（合格率92.3%）

今回は講習会をWEB・試験は会場という初めての取り組みでありましたが、大きなトラブルなく進めることができ、受講後のアンケートではWEBを活用した講習会を今後も是非続けて欲しいといった意見も数多く見られました。（アンケートの結果は追ってニュースレターでご紹介します。）

当機構では、資格者の方を増やすだけでなく、資格を有するメリット等を更に高めていくため、この自動車リサイクル士制度を、解体業許可の際に必要なものとなるように関係団体と協力して取り組みを進めておりますので、是非、今後の活動にご期待ください。

また、次年度もWEBを活用した新規講習会を予定しておりますので、社内研修や教育の一環としてなど、是非この自動車リサイクル士制度新規講習会の活用をご検討ください。



【東京会場試験の様子】



【福岡会場試験の様子】

巻頭言

オミクロン株の流行で年初からうんざりされている方も少なくないと思います。個人的には厚生労働省の以下のサイトを参考にしています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_0001.html

ページ後半“概況”の下「新規陽性者数の推移（日別）」の現在の流行を第6波としますと、第5波が8月20日頃、第4波が5月10日頃を頂点に、グラフの形が2等辺三角形になっています。そして波の始まりからピークまでの日数とピークから収束までの日数がほぼ同じ期間で推移しています。ということは今回もピークが分かれば収束の日数がある程度予測できます。外れるかもしれませんが（笑）

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 H P: <http://www.elv.or.jp/>

第6回 業界景況調査の結果について

集計・分析：東京都市大学環境学部 准教授 木村眞実

02

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第6回 景況調査報告 2021年10～12月期(概要版)

前期比の業況判断は2期連続マイナス 次期見通しも厳しく

【調査要領】

- ①調査時:2021年12月13日(月)～12月27日(月)
 - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数:466社のうち142社(30.4%)から回答を得た(うち、有効回答数 134)
 - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 29.4人(前回 28.8人)
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 6.1人(前回 12.5人)
- ※DI 値(DI : Diffusion Index)「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となれればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

■事務局より

次回2022年1～3月期の調査につきましては、2022年3月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第6回景況調査報告2021年10月～12月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20220128-20220128keikyoutyousa6.pdf>

(1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2021年10～12月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期(2020年10～12月比)との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△24(前回18.8)、売上高がゼロ(好転と悪化が同じ値)(前回39.8)、経常利益が△2.7(前回40.8)、および資金繰りが△0.9(前回18.3)であった。

図1 前年同期(20年10-12月)比業況判断:DI値△24

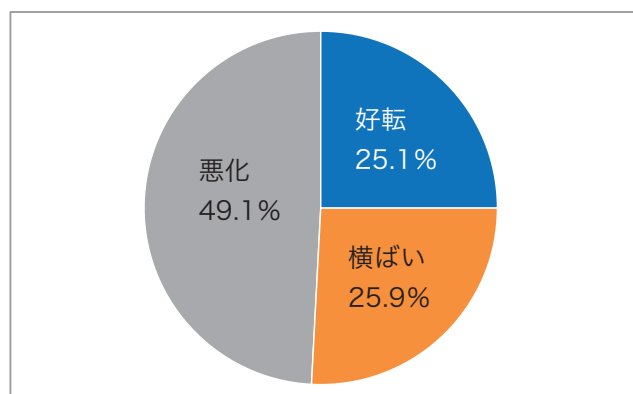
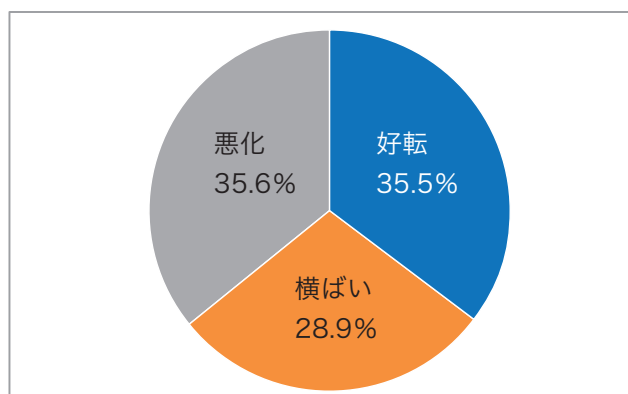


図2 前年同期(20年10-12月)比売上高: DI値ゼロ



※端数処理上DI値ゼロと表示

図3 前年同期(20年10-12月) 比経常利益:DI値△2.7

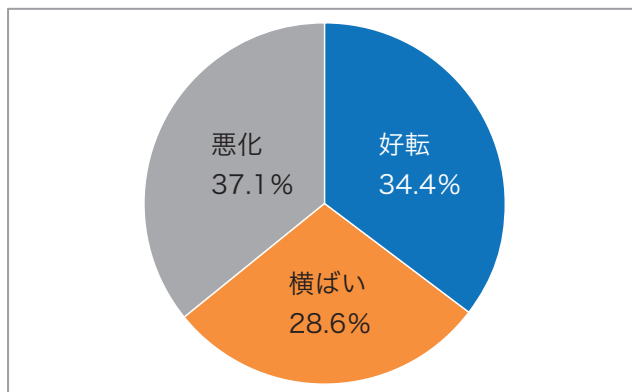
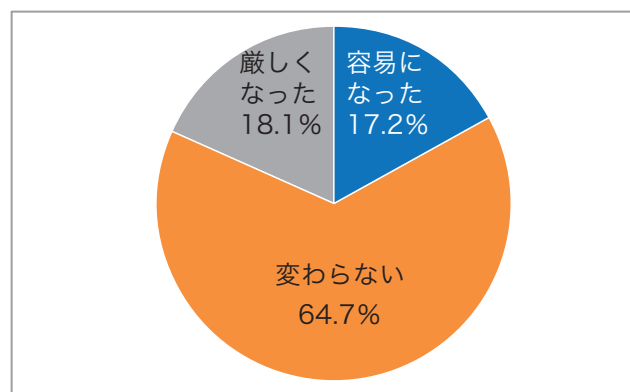


図4 前年同期(20年10-12月) 比資金繰り:DI値△0.9



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

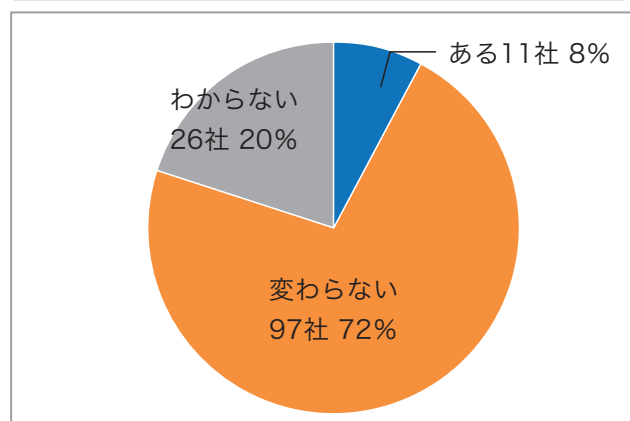
2021年10～12月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が11社・8% (前回5社・4%) であり、「変わらない」が97社・72% (前回117社・82%) であった (図5参照)。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢が6社 (前回調査4社)、私募債の勧誘が2社 (前回1社)、新たな貸し渋り2社 (前回ゼロ社)、その他 (海外送金を入金してくれない) が1社 (前回1社) であった (表を参照)。

表1 金融機関の姿勢変化の内容 (複数回答可)

貸付攻勢	6社
私募債の勧誘	2社
新たな貸し渋り	2社
その他	1社

図5 金融機関の姿勢変化

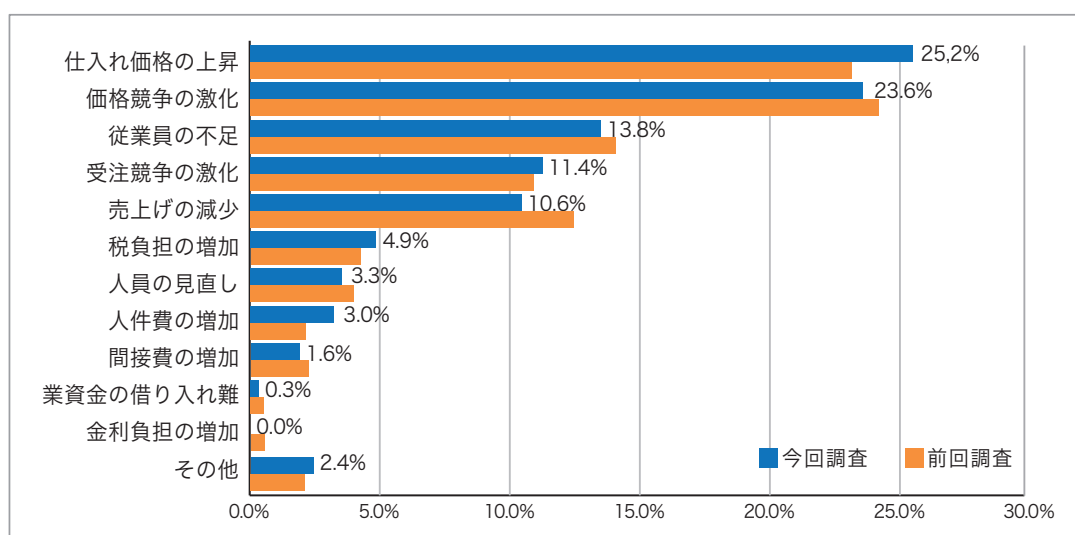


(3) 経営課題と取り組み等

① 経営課題

2021年10～12月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇 (93社・25%)、価格競争の激化 (87社・24%)、従業員の不足 (51社・14%) が上位であった (図6参照)。

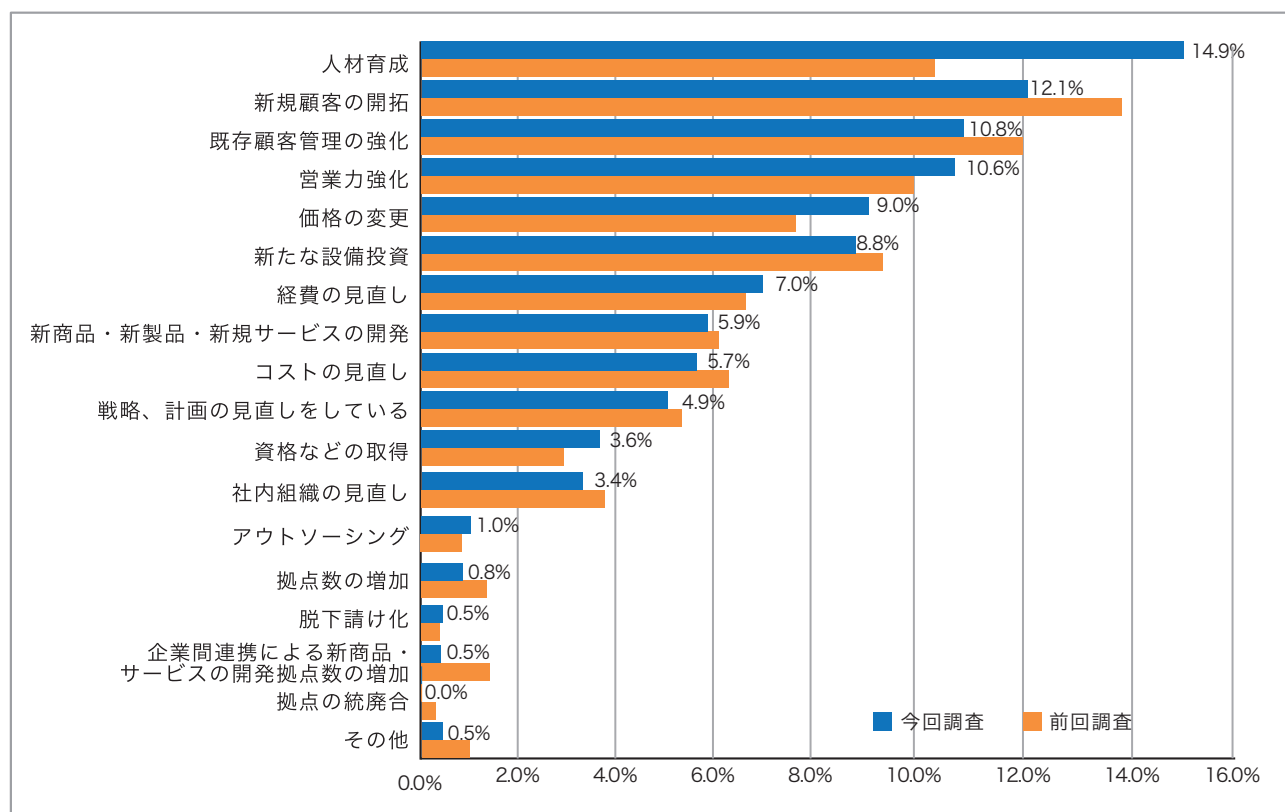
図6 経営上の課題 (上位3つまでの複数回答)



②現在の取り組み

2021年10～12月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、人材育成(58社・15%)、新規顧客の開拓(47社・12%)、既存顧客管理の強化(42社・11%)、であった(図7参照)。

図7 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



ヤフオクでの中古エアバッグ流通防止について

03

沢山の商品が出品され、皆様がよく利用されているヤフーオークション。こちらでは「中古エアバッグ類の出品」は禁止されており、以前皆様にもニュースレターでご案内しておりました。

出品禁止から1年以上経過し、一時期に比べてこういった出品がとてま少なくなっており、ルールへの浸透および市場の浄化が進んできたところですが、未だにインフレーター付きと思われるエアバッグ類が度々出品されております。ヤフーによるパトロールチームでも自主的な監視・削除作業は行っているようですが、対応できる範囲には限りがある状況とのことです。

ヤフーオークションにてインフレーター付きの中古エアバッグ類を発見された際は、「違反申告」をしていただきますと、その違反通知が出品者へ届くシステムとなっておりますので、万が一発見された場合は違反申告をしていただきますようお願いいたします。

【検索方法及び申告方法は以下をご参照ください】

■検索方法

【ヤフオク！トップページ】 <https://auctions.yahoo.co.jp/#>

ヤフオク!

[ログイン](#)
IDでもっと便利に新規取得

エアバッグ インフレーター で検索

×

すべてのカテゴリ ▼

Q

+ 条件指定

■申告方法（違反商品を見つけた）

【ヤフオク！ヘルプページ】 <https://support.yahoo-net.jp/PccAuctions/s/article/H000005359>

2021年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 12月出荷状況と今期累計

04

【2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 12月出荷状況と今期累計】

上段 12月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
19	10	62	2	0	27	0	1	4
78	289	596	13	0	392	1	6	10

クラウン HV AWS210	SAI/ レクサス HS250H	カムリ HV	日産デュロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
1	1	0	0	0	0	0	0	108
12	30	8	0	7	3	3	39	1409

□2020年度の結果・2021年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

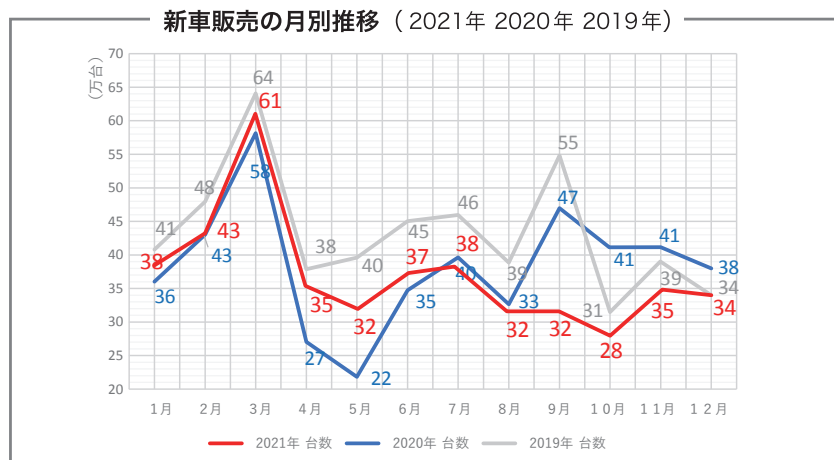
※セレナC26ジェネレーター共同出荷事業は予定数に達したため、終了しましたが、引き続き、リビルドコアとして機構会員特別価格(9月改訂)での買取を行っております。

買取をご希望の場合は、アーネスト(TEL048-981-6384、担当：川崎様・加藤様)までお問い合わせください。

12月新車販売・使用済自動車発生台数

05

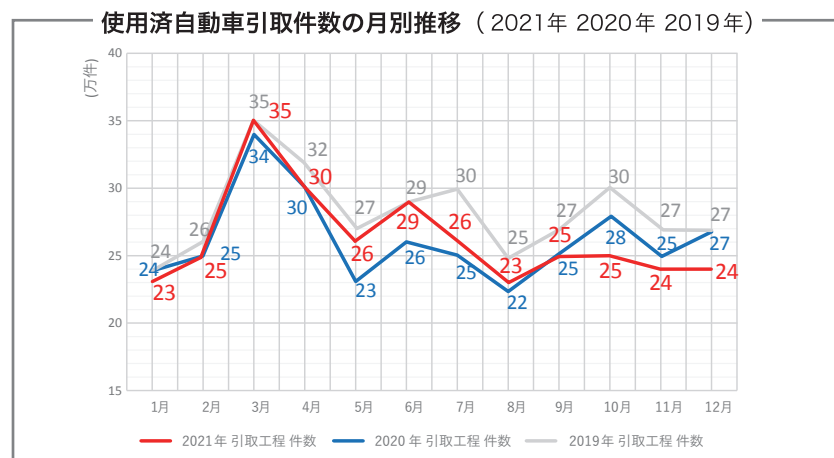
■2021年12月度 新車販売台数 336,442台 前年同月比 88.6%



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2021年 (12月まで)	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

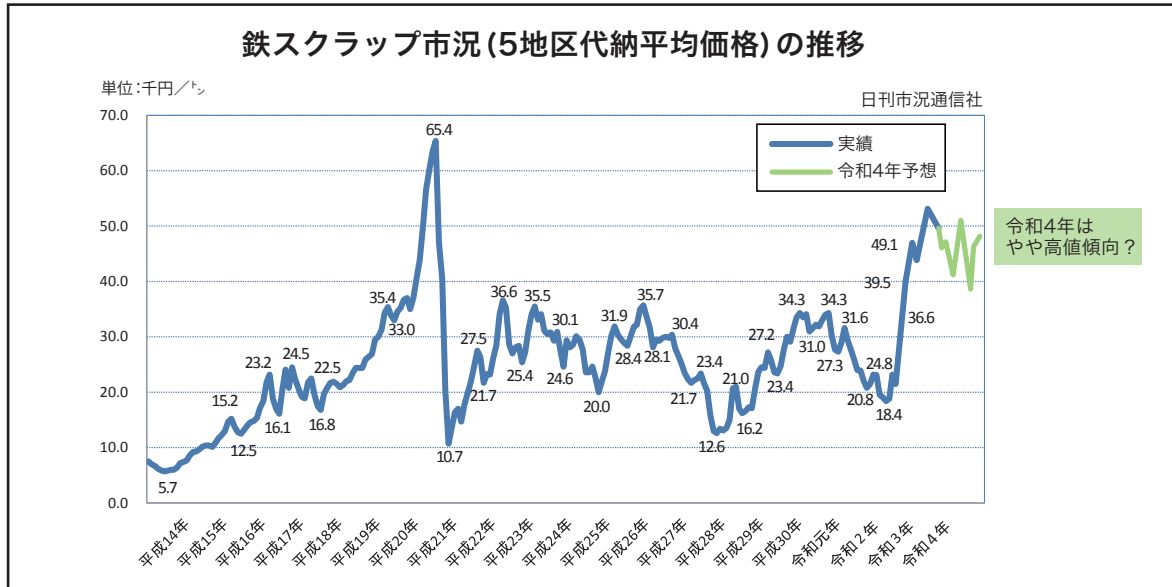
※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2021年12月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況



引取件数
237,443件 (前年同月比 88.7%)
フロン回収工程
210,179件 (前年同月比 87.7%)
解体工程
243,904件 (前年同月比 88.3%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



2022年度の鉄鋼内需は、底堅く推移する見通し

2021年の鉄スクラップ市況はH2価格が一時5万円台後半にまで上伸するなど、2008年以来の高値に達した。コロナ禍による経済縮小に伴う粗鋼減産から回復傾向が続き、鉄スクラップ需要が伸びる一方、市中発生 of 回復の伸びが鈍く、供給不足の状態が続いたためだ。しかし、海外・輸出市場が値下がりすると、日本国内相場は10月末頃から下落基調に転じた。12月中旬時点の国内相場は小幅な下げにとどまっているが、輸出価格は先行して大幅に値下がりしており、2022年は上伸材料に乏しい状況でのスタートとなった。

2022年、世界経済は回復基調を続ける見通しだ。IMFによると、2021年の経済成長率は5.9%と予測(2021年10月時点)。2022年は若干鈍化するものの4.9%と予測(同)している。コロナ禍による経済縮小への対策として、先進国を中心に大型の経済対策を各国が実施。その総額は16兆9千億ドル(約1910兆円)とされる(IMF10月調べ)。また、米国は2021年11月、総額1兆ドル(約115兆円)規模のインフラ法を成立させた。こうした大型の経済対策を背景に、世界鉄鋼需要は増加傾向を続ける見通しとなっている。世界の粗鋼生産量は2020年4月頃を底に回復傾向を続けてきた。2022年もこの状況が保たれるとすれば、底堅い原料需要が期待できる。

日本鉄鋼連盟は「2022年度の鉄鋼需要見通し」を発表した。これによると、2022年度の鉄鋼内需は「底堅く推移する見通し。建設業では、土木部門が高位で推移するも、資材費等のコスト上昇により需要は前年割れを見込む。建築部門では、住宅需要が前年を下回るものの、非住宅部門では工場等への投資が回復すると見られ、鋼材需要は増加する見通し。製造業では、自動車部門が年度前半に供給ネックが解消し回復すると見られることから、鋼材需要は増加を見込む。機械部門は、設備投資の改善から国内向けも回復すると見られ、鋼材需要も持ち直しが期待される」とし、また鉄鋼外需については、「前年度水準を見込む。IMFが2022年の世界経済が回復すると予測していることに加え、世界鉄鋼協会の短期需要見通しにおいても世界鉄鋼需要の増加を見込むものの、国内鉄鋼需要が増加することから、日本の鉄鋼輸出は前年度同水準で推移する」としている。

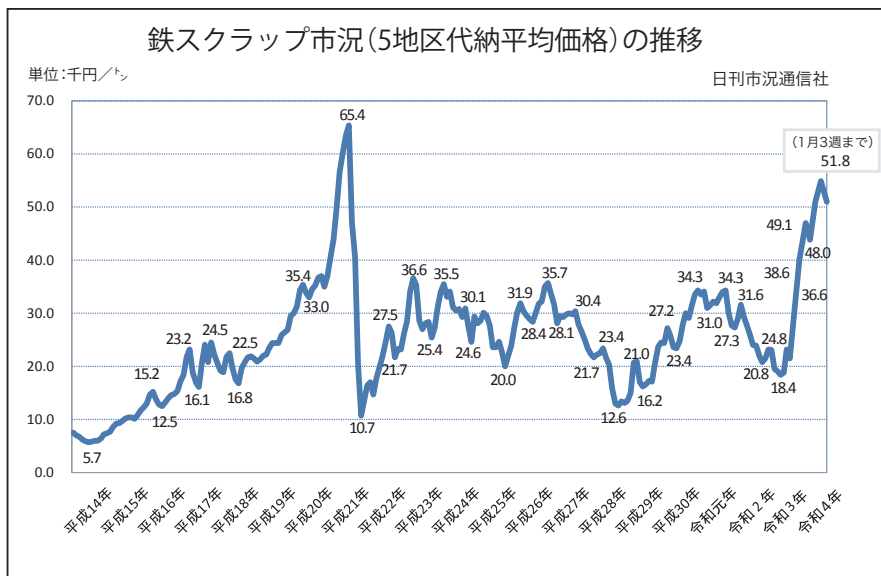
こうした状況を受け、2022年度の「粗鋼生産は前年度と同水準で推移する」見通しだ。

これらを勘案すると、原料となる鉄スクラップ市況は、昨年と同様に感染症拡大状況、中国経済の動向など懸念事項は依然として存在するものの、2022年にかけては大勢としては前年ほどの高値圏には至らないものの、堅調感を保ちながら推移することが考えられる。H2の炉前価格は概ね40,000～55,000円の範囲内で上下を繰り返す動きとなりそうだ。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本自動車リサイクル機構は一切の責任を負いません。)

1月第4週(19日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



1月19日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,000～53,000	様子見
	南関東	50,000～53,000	様子見
	浜値	49,500～50,500	小幅反発
名古屋		52,000～53,500	弱含み様子見
関西	大阪	53,000～54,500	弱気
	姫路	53,000～54,000	弱気

欧米市場、米国を中心に弱基調 米国国内は急落、トルコ相場も天井感

欧米市場では、1月中旬にかけて米国を中心に弱気ムードが広がりつつある。米国国内の1月向け契約価格は、クリスマス以降の休みが明けてから市場の動きが本格化した1月10日以降、各地とも大幅な値下がりで見られ、No.1ヘビーは地区により値動きには特に差があるが、40ドルから70ドルの値下げが多く見られた。新断類のブッセリングは60ドルどころの値下げが大勢となっている。その背景には、今年から米国通商拡大法232条の一部に純EU産の鉄鋼製品などに関税が緩和される動きとなり、この影響で米国国内の製品市況にも不透明観が出ていることが挙げられる。

米国市場の動きを受け、先週に上昇したトルコの輸入相場にも天井感が出ている。建材品種の引き合いの減少などから今週に入り需要家は静観の姿勢にある。

■アジア向けは比較的堅調感を保つ展開

こうした中、アジア向け相場は比較的堅調感を保っている。先週末までに韓国向けの成約が複数出ており、現代製鉄と東国製鋼がロシアA3をCFR513ドルでいずれも1万7千トン程度を成約。韓国向け米国玉HMS1&2(80:20)の商談はCFR520～530ドルどころ。ベトナム向けも同様の価格帯での交渉が聞かれるが、今後は米国国内相場の急落による影響が焦点となりそうだ。

【関東地区】 需給双方とも需給動向など様子見

関東市場では需給双方に様子見機運が広がっている。輸出価格の上伸を受けて、安値先行していた湾岸商社・シッパー筋が浜値を上げ戻す動きとなっており、電炉筋や市中問屋筋が当面の需給・相場動向を様子見する姿勢を見せている。H2炉前実勢価格は50,000～52,000円中心、高値53,000円見当で様子見商状。H2浜値は49,500～50,500円中心で、一部に高値あり。需給双方とも輸出市場の動向などを注視しながらの対応が続きそうだ。

【東海地区】 弱気感を残しつつ様子見で推移

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、弱気感を残しつつも様子見で推移している。域内の電炉大半は1月前半にかけて500円がた(ドライ粉は半数で1,500円がた)の値下げを実施した。その後も東日本や西日本メーカーでは下げ改定が進んでいるものの、名古屋地区では約1週間にわたり価格変更は見られない。昨年12月24日が直近の改定となる東京製鉄田原工場の据え置き対応もその背景にある。H2炉前実勢価格は52,000～53,500円中心。

【大阪地区】 値下げ改定後も入荷好調保ち弱基調

大阪地区の鉄スクラップ市況は1月後半を迎えても安値追いの展開が続いており、依然として弱基調にある。他地区との格差は解消されつつあるが、値下げ改定後も電炉入荷は好調を保ち、さらには上級については荷止め、制限買いが継続する動きにあることから、需給面での下落圧力はなおも解消する兆しは見えてこない。H2炉前実勢価格は、大阪地区が53,000～54,000円中心、一部高値54,500円。姫路地区が53,000～54,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月19日午後時点のもの)

行事予定

February

ー 2月の主な行事予定ー

■2月2日(水)

- ・第4回リサイクル技術部会(WEB)

■2月4日(金)

- ・自動車リサイクル士制度
「第3回更新講習会」

■2月8日(火)

- ・第11回 広報部会(WEB)

■2月10日(木)

- ・近畿ブロック会議 (WEB)

■2月15日(火)

- ・第4回ブロック長会議(WEB)

■2月16日(水)

- ・WEB講演会

テーマ：

「2022年の資源相場の見通し」

講演者：

(株)日刊市況通信社

代表取締役社長 三上 慎史 様

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

2021年度未来部会 WEB講演会のご案内

当機構の未来部会では、これまで事業所見学会や講演会などを開催しご好評いただいております。

この度、講師として株式会社日刊市況通信社の三上代表取締役社長をお招きし、「2022年の資源相場の見通し」をテーマとしたWEB講演会を、機構会員限定で開催することとなりましたのでご案内いたします。

■詳細・お申込みは以下のURLをご確認下さい。

→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20220118-2021WEBkoennkai.pdf>

※参加費用：無料

※お申込みは先着順となり、50名の定員になり次第締め切りとさせていただきます。

機構会員の皆様におかれましては、ぜひ奮ってお申し込みください！

編集後記

オミクロン株も予断を許しませんが、今年の大寒波も相当厳しいものがあります。我が社のストックヤードがある山形市では、連日の豪雪で自動車が埋まってしまい、雪下ろしというよりも、芋掘りみたいに自動車を掘り起こすところまで降り積もっています。排雪も何度も行わないと雪の置き場がありません。日々の三割ほどは排雪作業でくたくたになっているのが現状です。

それにしても、これだけ雪が猛威を振ると、いくら最新の安全支援システムを装備している自動車といえども決して油断はなりません。車体やバンパーに着氷、あるいは雪が付着すると誤作動を起こしてしまうからです。車内はピー、ピーと異常を知らせるアラームが鳴り響き、一瞬何事かと慌てふためきます。最新技術もこういう場面でこそ本領発揮してもらいたいところですが、大自然の前では打つ手無しといったところでしょうか。もっとも最新技術を過信してしまい、それに頼り切っている我々にも問題はあります。あまり楽することばかりを求めず、普段より運転技術も磨いておくことも必要なのかもしれません。

(広報部会長 永田 則男)